

2. 発生状況

死亡・行方不明者が発生した船舶の約9割が小型船舶

死亡・行方不明衝突事故に関係した船舶（208隻）のうち、死亡者、行方不明者が発生した船舶（105隻）を船種別にみると、漁船が56隻（53.3%）、プレジャーボートが23隻（21.9%）、水上オートバイが10隻（9.5%）などとなっています。（図3参照）

また、これらの船舶を総トン数別にみると、小型船舶が95隻（90.5%）を占めています。（図4参照）

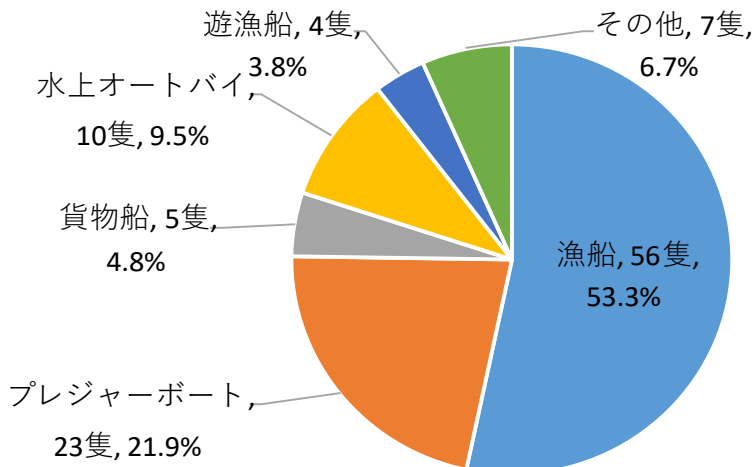


図3 死亡・行方不明者が発生した船舶における船種別の発生隻数

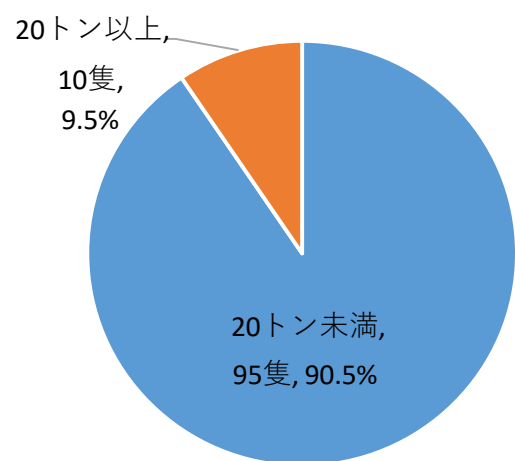


図4 死亡・行方不明者が発生した船舶における総トン数別の発生隻数

約6割が相手船を認識していなかった

死亡・行方不明衝突事故に関係した船舶（208隻）のうち、相手船を認知していたか否かを確認できたのは132隻でした。このうち、相手船を認識していたのは56隻（42.4%）であったのに対し、相手船を認識していなかったのは76隻（57.6%）でした。（図5参照）

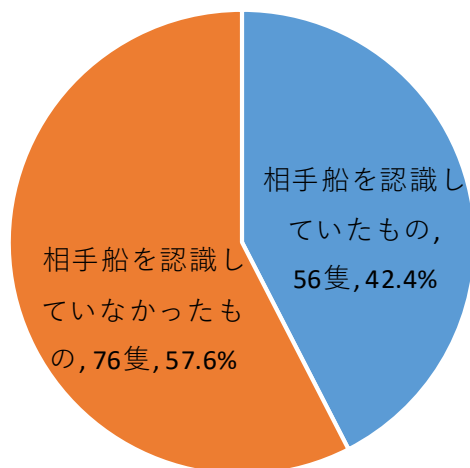


図5 相手船の認知状況

相手船を認識していたにも関わらず衝突した主な要因

- 安全に航過できると思った
- 相手船が避けてくれると思った（錨泊船又は漂泊船）
- 航法上、相手船が避けるべきと考えた

相手船を認識していなかった主な要因

- 船首方に死角があった
- 他船等に注意を向けていた
- 他船がないと思い込んでいた